

## 低温科学研究所シンポジウム「オホーツク海研究の展望」のお知らせ

日時：12月7日（木）・8日（金）

会場：北海道大学低温科学研究所 2F 講義室

コンピーナー：若土正暁，竹内謙介（北大低温研）

趣旨：

オホーツク海は北半球で最も低緯度に位置する季節海水域として知られている。また、最近では、北太平洋中層水の起源水がオホーツク海で生成されているのではないかと注目されている。もしこれが事実なら、大気中に放出された地球温暖化ガスである CO<sub>2</sub> は、その起源域から吸収され、やがて海洋中層を広く循環していくことになる。この他、海洋生態学上でも、オホーツク海は極めて興味深い海域であることが指摘されている。

北海道大学低温科学研究所は、本年4月1日より全国共同利用研究所として改組され、当面の重要研究課題として、オホーツク海の海水を中心とした総合研究を推進していくことになりました。つきましては、以下のようなシンポジウムを開催し、関係する多くの研究者のご意見を伺いつつ、今後の研究展望を図ってまいりたいと存じます。できるだけ多くの方々にご出席下さることを願っております。

12月7日（木）13：30～17：30

セッションI「オホーツク海研究の背景・位置づけ」

講演者：青田昌秋（北大低温研）・花輪公雄（東北大）・池田元美（北大地球環境）・松野太郎（北大地球環境）

セッションII「学際的研究への展望」

講演者：高橋正征（東大）・植松光夫（北海道東海大）・兒玉裕二（北大低温研）

セッションIII「新しい観測手法」—人工衛星・航空機・音響式計測など—

講演者：高橋修平（北見工大）・斎藤誠一（北大水産）・中村健治（名大大気水圏）・熊谷 博（郵政省通総研）・竹内俱佳（電通大）

セッションIV「国際的背景」

講演者：滝沢隆俊（JAMSTEC）・山内 恭（極地研）

懇親会 18：00～20：00

12月8日（金）9：30～14：50

セッションV「key となるテーマ」

1. 北太平洋中層水の起源

講演者：安田一郎（北大地球環境）・川崎康寛（水産庁北水研）・淡路敏之（京大）

2. 海水の一生

講演者：田中教幸（北大地球環境）・河村俊行（北大低温研）

3. 海水過程のモデル化

講演者：浮田甚郎（東大）

4. 大気-海洋相互作用

講演者：山崎孝治（北大地球環境）・榎本浩之（北見工大）

セッションVI「総合討論 —研究プロジェクトの提案と議論—」

講演者：成瀬廉二（北大低温研）・竹内謙介（北大低温研）・大島慶一郎（北大低温研）・若土正暁（北大低温研）

プログラム等詳細は、ネットニュースの eoas.announce または page. group. hokudai か、ホームページ <http://clim.lowtem.hokudai.ac.jp> を参照するか、下記にお問い合わせ下さい。

事務局：北海道大学低温科学研究所

〒060 札幌市北区北19条西8丁目

TEL 011-706-5480（若土）、

-5470（竹内）、-5481（大島）

FAX 011-706-7142